

専門分野	授業科目	看護学原論	単位数	1	講義時期	1年次前期	授業形態	講義
			時間数	30				
事前学習内容	各回の講義に対応する教科書の内容を読み、概要を理解しておくこと 動画があるものについては動画を視聴しておくこと							
科目のねらい	ナイチンゲール看護論における看護の目的・対象の見つめ方・看護を実践するための思考の筋道を学び、看護の本質を理解する。また、看護の歴史的経変遷と代表的な看護理論の特徴を学ぶ。							
DPとの関連 到達目標	DP 1-2) DP 2-1) DP 2-2) DP 2-3)	1. ナイチンゲールの看護論の目的論・対象論・方法論を理解できる 2. ナイチンゲール看護論を基盤に据えた科学的看護論の全体像を理解できる 3. 看護の歴史や看護の理論家について理解できる						
単元名		教育内容						備考
Ⅰ. ナイチンゲールの看護の目的論・対象論・方法論		1. 看護学を学ぶための導入 2. 看護学原論の位置付け 3. ナイチンゲールの看護観 4. ナイチンゲールの考える看護を看護理論として位置付ける 5. ナイチンゲール看護論の骨子	1)看護とは何か 2)看護師の仕事 （1）保健師助産師看護師法から （2）看護職の倫理綱領 3)看護を学ぶために大切なこと （1）人間の認識の3段階 1)看護学原論とは 2)位置づけ 1)フローレンス・ナイチンゲールの紹介 2)「看護覚え書」の紹介 3)ナイチンゲールの考える看護 1)理論の要素 2)ナイチンゲールの考える看護の分析 1)看護観 2)人間観 3)健康観 4)生活観 5)自然観				演習	
Ⅱ. 科学的看護論における目的論		1. 看護の目的 2. 科学的看護論の科学の意味するもの	1)ナイチンゲールの看護一般 1)科学とは 2)看護実践に潜む法則性					
Ⅲ. 科学的看護論における対象論		1. 看護するための人間の見つめ方	1)看護のための人間一般論 （1）自然と人間 （2）社会と人間 （3）人間の脳の働き （4）人間の生命力 （5）人間の健康なあり方 （6）人間の生活一般 （7）生物体と生活体の統一性				演習	
Ⅳ. 科学的看護論における方法論		1. 看護の原基形態 2. F. N「3重の関心」から実践方法論をまとめる 3. 看護過程展開の技術	1)看護の原基形態とは 1)三重の関心とは 2)実践方法論とは 1)看護過程展開の技術の形式面・内容面 2)看護過程展開のための思考のプロセス 3)看護過程展開モデル図					
Ⅴ. 看護学の歴史		1. 歴史の始まりと看護 2. 看護学の発展	1)歴史にみる看護の誕生 2)宗教と戦争 3)職業としての看護の誕生と発展 1)看護理論の発達 2)看護理論家の紹介とその特徴					
評価方法		筆記試験・レポート（配点については、授業日程確定時に提示する）						

専門分野	授業科目	基礎看護方法Ⅰ	単位数	1	講義時期	1年次前期	授業形態	講義 校内実習
時間数	30							
事前学習内容	各回の講義に対応する教科書の内容を読み、概要を理解しておくこと 動画があるものについては動画を視聴しておくこと							
科目のねらい	看護技術の位置付けを理解し、看護の場面で共通して必要な看護技術とその根拠を学ぶ。							
DPとの関連 到達目標	DP 1-1) 1. 看護技術の位置付けが理解できる DP 2-2) 2. 日常生活力を観察するための視点を理解し、観察の技術を習得できる DP 2-3) 3. コミュニケーション・記録・報告・指導技術の目的・方法を習得できる DP 2-4) 4. 感染予防の必要性を理解し、その方法を習得できる 5. ボディメカニクスの原則を理解し、その方法を習得できる							
単元名	教育内容							備考
Ⅰ. 看護技術の位置づけ	1. 看護技術とは	1) 技術とは 2) 専門的な技術とは 3) 看護技術とは 4) 看護技術の修得						
Ⅱ. 観察	1. 観察技術 2. 健康状態の観察 3. 生命維持状態の観察	1) 観察とは 2) 観察の方法 3) 看護するための観察とは 1) 身体計測 1) バイタルサインの測定(脈拍・体温・呼吸・血圧) 2) 意識の観察の方法						校内実習 校内実習
Ⅲ. コミュニケーション	1. コミュニケーション技術	1) コミュニケーションとは 2) コミュニケーションの方法						
Ⅳ. 感染予防	1. 感染予防技術	1) 感染予防の3原則 2) スタンダードプリコーション 3) 手指衛生 4) 個人防護用具						校内実習 校内実習
Ⅴ. ボディメカニクス	1. ボディメカニクス	1) ボディメカニクスの原則 2) 基本的体位						
Ⅵ. 指導技術	1. 指導技術 2. 看護過程の成立	1) 指導とは 2) 指導の目的と方法 3) 指導の成立 1) 看護過程の成立とは 2) プロセスレコード						
Ⅶ. 記録・報告	1. 記録・報告	1) 記録の目的 2) 記録の種類 3) 記録の留意点 4) 記録の実際(全体像・経過記録) 5) 報告の目的 6) 報告の留意点						
Ⅷ. 事故防止		1) 医療事故とは 2) 事故につながる要因 3) 医療事故予防対策						
評価方法	筆記試験・レポート(配点については、授業日程確定時に提示する)							

専門分野	授業科目	基礎看護方法Ⅱ	単位数	1	講義時期	1年次前期	授業形態	講義 校内実習
事前学習内容	食・排泄に関する解剖生理について復習しておくこと 各回の講義に対応する教科書の内容を読み、概要を理解しておくこと 動画があるものについては動画を視聴しておくこと							
科目のねらい	「病床環境を整える」「食と排泄のバランスを整える」意義を理解し、そのために必要な看護技術とその根拠を学ぶ。							
DPとの関連 到達目標	DP 2-2) 1. 健康にとって環境の意義を理解できる DP 2-3) 2. 環境を整えるために必要な援助の方法を習得できる DP 2-4) 3. 健康にとって食と排泄の意義を理解できる 4. 食と排泄を整えるために必要な援助方法を習得できる							
単元名	教育内容							備考
I. よい生活環境を整える	1. 健康にとっての環境の意義 1) 健康にとって「生活環境」とは (1)生活環境の必要条件 (2)看護の視点 2)健康にとってよい生活環境とは何か 2. 環境調整 1)環境調整の基礎知識 (1)病床環境のアセスメント 3. ベッドメイキング 1)リネンのたたみ方 2)ベッドメイキング 4. シーツ交換 1)シーツ交換の目的・方法 2)臥床患者のシーツ交換							校内実習 校内実習 校内実習
II. 食と排泄のバランスを整える	1. 健康にとって食の意義 1)健康にとって「食」とは (1)「食」の必要条件 (2)看護の視点 2. 食の援助 1)食事援助の基礎知識 (1)食に関するアセスメント (2)健康障害時の食事 2)食事介助 3)非経口的栄養摂取の援助 (1)経管栄養法 (2)経静脈栄養法 3. 健康にとって排泄の意義 1)健康にとって「排泄」とは (1)「排泄」の必要条件 (2)看護の視点 4. 排泄の援助 1)排尿・排便援助の基礎知識 (1)排泄に関するアセスメント 2)自然排泄を促すケア 3)便・尿器の当て方 4)おむつの当て方							校内実習 校内実習 校内実習
評価方法	筆記試験・レポート（配点については、授業日程確定時に提示する）							

専門分野	授業科目	基礎看護方法Ⅲ	単位数	1	講義時期	1年次前期	授業形態	講義 校内実習
事前学習内容	皮膚、口腔内の解剖生理、ボディメカニクスの原則について復習しておくこと 各回の講義に対応する教科書の内容を読み、概要を理解しておくこと 動画があるものについては動画を視聴しておくこと							
科目のねらい	この科目では健康にとって「清潔」「運動と休息」意義を理解し、そのために必要な技術とその根拠を学ぶ。							
DPとの関連 到達目標	DP 2-2) DP 2-3)	1. 健康にとって清潔の意義を理解できる 2. 清潔保持のために必要な援助の方法を習得できる 3. 健康にとって運動と休息の意義を理解できる 4. 運動と休息を整えるために必要な援助方法を習得できる						
単元名	教育内容							備考
I. 清潔を整える援助	1. 健康にとって 清潔の意義	1)健康にとって「清潔」とは (1)「清潔」の必要条件と看護の視点 2)衣生活 (1)衣服の意義 (2)衣服の選択						校内実習 校内実習
	2. 寝衣交換	1)寝衣交換の目的・方法 2)臥床患者の寝衣交換(和式寝衣)						
	3. 全身清拭	1)清拭の目的・方法 2)臥床患者の全身清拭						
	4. 部分浴	1)手浴・足浴の目的・方法 2)臥床患者の足浴						
	5. 洗髪・整髪	1)洗髪の方法・目的 2)臥床患者の洗髪(ケリーパッド) 3)洗髪車を用いた洗髪						
	6. 陰部洗浄	1)陰部洗浄の目的・方法 2)臥床患者の陰部洗浄						
	7. 口腔内清潔法	1)口腔清潔法の方法・目的 2)臥床患者の口腔内清潔法(清拭法・歯磨き法)						
II. 運動と休息のバランス を整える援助	1. 健康にとって 運動・休息とは	1)健康にとって運動・休息とは (1)運動の必要条件と看護の視点 (2)休息の必要条件と看護の視点						校内実習 校内実習 校内実習
	2. 良肢位	1)良肢位の目的・対象 2)良肢位						
	3. 体位変換の援助	1)ボディメカニクスを活用した体位変換						
	4. 移乗・移送の援助	1)車椅子の目的・対象 2)車椅子の移乗・移送の介助 1)ストレッチャーの目的・対象 2)ストレッチャーの移乗・移送						
	5. 休息への援助	1)休息援助の基礎知識						
評価方法	筆記試験・レポート(配点については、授業日程確定時に提示する)							

専門基礎分野		授業科目	基礎看護方法Ⅳ		単位数 1	講義 時期	1年次前期	授業 形態	講義 校内実習	
					時間数 30					
事前学習内容		感染予防の原則について復習をしておくこと 事前に教科書を読み、必要な動画は視聴しておくこと								
科目のねらい		この科目では感染予防、診断と治療における必要な技術とその根拠を学ぶ。								
DPとの関連		DP 2-2) DP 2-3)	1. 感染予防に必要な技術を習得できる 2. 診断・治療における看護師の役割を理解できる 3. 検査・与薬に伴う援助の方法を習得できる							
単元名			教育内容						備考	
Ⅰ. 感染予防			1. 感染予防	1)感染予防の三原則 (1)病原体の除去 (消毒・滅菌) (2)侵入経路の遮断 (無菌操作・滅菌手袋の装着・ガウンテクニック) (3)人体の抵抗力の増強 2)滅菌物の取り扱い					校内実習	
Ⅱ. 診断・治療と看護(1)			1. 看護にとっての 診断・治療	1)診断・治療の場面における看護者の役割 2)看護の視点					校内実習	
			2. 検査の介助	1)検査の目的・検査値の意味 2)検査における看護の役割 3)検査を伴う不快を最小にする為の援助 4)検体の採取(尿・糞便・喀痰・分泌物・血液) 5)採血						
			3. 与薬と看護	1)与薬の種類・目的 2)薬物の管理 3)与薬の実際 (1)経口的与薬法 (2)口腔内与薬法 (3)直腸内与薬法 (4)注射法(皮下・皮内・筋肉・静脈内・点滴静脈内) (5)塗布・塗擦法						校内実習
			4. 輸血と看護	1)輸血の種類・目的 2)輸血時の援助						
			5. その他の治療・ 処置と看護	1)洗浄の介助(胃洗浄・膀胱洗浄) 2)穿刺の介助(腹腔穿刺・胸腔穿刺・腰椎穿刺) 3)包帯法					校内実習	
評価方法		筆記試験・レポート (配点については、授業日程確定時に提示する)								

専門分野	授業科目	基礎看護方法Ⅴ	単位数	1	講義時期	1年次後期	授業形態	講義 校内実習
事前学習内容	援助に関わる解剖生理について復習しておくこと 各回の講義に対応する教科書の内容を読み、概要を理解しておくこと 動画があるものについては動画を視聴しておくこと							
科目のねらい	排泄障害、呼吸障害、苦痛のある対象、また死を避けられない対象の援助ために必要な看護技術とその根拠を学ぶ。							
DPとの関連 到達目標	DP 2-2) DP 2-3) DP 2-4)	1. 排泄障害のある対象の援助の方法を習得できる 2. 呼吸障害のある対象の援助の方法を習得できる 3. 苦痛のある対象の援助の方法を習得できる 4. 死を避けられない対象の援助の方法を習得できる						
単元名		教育内容						備考
Ⅰ. 診断・治療と看護(2)		1. 排泄障害のある対象 の処置と援助 2. 呼吸障害のある対象 の処置と援助 3. 苦痛のある対象の 援助 4. 死を避けられない対象 処置と看護	1) 浣腸 2) 排便 3) 導尿 1) 酸素療法 2) 排痰ケア （1）体位ドレナージ （2）咳嗽介助 （3）吸引 1) 安楽な体位 2) 褥瘡 3) リラクゼーション 1) 臨終期の看護 2) 死後の処置					校内実習 校内実習 校内実習 校内実習 校内実習 校内実習
評価方法		筆記試験・レポート（配点については、授業日程確定時に提示する）						

専門分野	授業科目	基礎看護方法Ⅵ	単位数 1 時間数 30	講義 時期	1年次後期	授業形態	講義 校内演習
事前学習内容	既習の「看護学原論」「基礎看護方法Ⅰ」の内容を復習しておくこと						
科目のねらい	個別な対象に合わせて看護するための看護過程展開技術を学ぶ						
DPとの関連 到達目標	DP 2-1) DP 2-3)	1. 看護過程を構成する要素とそのプロセス、看護過程を用いることの意義を理解できる 2. 事例を用いて、看護過程の各段階の基本的な考え方と実際を理解できる					
単元名		教育内容					備考
Ⅰ. 看護過程展開の技術		1. 看護の視点での病気の捉え方	1) ライフサイクルにおける健康障害の現れ				演習
		2. 看護過程展開の技術	1) 看護過程とは 2) 看護過程の構成要素				
		3. 看護過程の各段階	1) 全体像モデルとは 2) 事実・資料・情報の関係 3) 生活過程を描く 4) 全体像モデルに描く 5) 立体像モデルを描く 6) 対象特性をとらえる 7) 日常生活力アセスメントモデルを描く 8) 生物体の必要条件 9) 看護上の問題(問題の明確化) 10) 日常生活力アセスメントモデル 11) 目標の展開 12) 実施・評価				
		4. 事例を用いた看護過程展開技術	1) 対象特性を捉える 2) 生物体の必要条件 3) 問題の明確化 4) 計画・立案				
評価方法		筆記試験・レポート（配点については、授業日程確定時に提示する）					

専門分野	授業科目	基礎看護方法Ⅶ	単位数	1	講義時期	2年次後期	授業形態	講義 校内演習
時間数	30							
事前学習内容	既習の「基礎看護方法Ⅵ」看護過程展開について復習しておくこと							
科目のねらい	看護過程展開の技術の基本を活用し、対象の位置から看護の評価方法を学ぶ。							
DPとの関連 到達目標	DP 2-2) 1. 看護過程展開における評価の意義を理解できる DP 2-3) 2. 自己の看護実践を評価することができる DP 4-1)							
単元名	教育内容							備考
Ⅰ. リフレクション	1. リフレクション							
Ⅱ. 看護実践の評価	1. 看護実践の評価方法							
Ⅲ. 自己の看護実践の振り返り	2. 自己の看護実践の振り返り (基礎看護学実習Ⅱ)							
	3. カンファレンス							
	1) リフレクションとは 2) リフレクションに必要なスキル 3) リフレクションの方法							
	1) 評価とは 2) 評価の意義 3) プロセスレコードの読み方 4) 看護実践の評価							
	1) 看護実践記録の整理 2) 看護実践の評価							演習
	1) カンファレンスの意義 2) カンファレンスの目的・方法							演習
評価方法	筆記試験・レポート（配点については、授業日程確定時に提示する）							

専門分野	授業科目	ヘルスアセスメント	単位数	1	講義時期	2年次前期	授業形態	講義 校内実習	
事前学習内容	解剖生理について復習しておくこと 各回の講義に対応する教科書の内容を読み、概要を理解しておくこと 動画があるものについては動画を視聴しておくこと								
科目のねらい	ヘルスアセスメントに必要な技術とその根拠を学ぶ。								
DPとの関連 到達目標	DP 2-2) DP 2-3)	1. ヘルスアセスメントの重要性、概要を理解できる 2. フィジカルアセスメントの基本技術が習得ができる 3. 心理・社会状態のアセスメントが理解できる							
単元名		教育内容						備考	
I. ヘルスアセスメント		1. ヘルスアセスメント	1)ヘルスアセスメントとは 2)健康歴とセルフケア能力のアセスメント (1)問診の目的 (2)問診の実際 (3)情報の整理						校内実習 校内実習 校内実習
		2. フィジカルアセスメント総論	1)フィジカルアセスメントに必要な技術 (視診・触診・聴診・打診) 2)全身状態・全体印象の把握						
		3. フィジカルアセスメント各論	1)ケアにつなげるフィジカルアセスメント 2)呼吸器系のフィジカルアセスメント 3)循環器系のフィジカルアセスメント 4)乳房・腋窩のフィジカルアセスメント 5)腹部のフィジカルアセスメント 6)筋・骨格系のフィジカルアセスメント 7)頭頸部と感覚器のフィジカルアセスメント 8)外皮系のフィジカルアセスメント						
		4. 心理・社会状態のアセスメント	1)心理的側面のアセスメント 2)社会的側面のアセスメント						
評価方法		筆記試験・レポート（配点については、授業日程確定時に提示する）							

専門分野	授業科目	臨床薬理と看護	単位数	1	講義時期	2年次前期	授業形態	講義
			時間数	15				
事前学習内容	既習の「薬理学」「救急看護学」「成人看護方法Ⅰ」「成人看護方法Ⅲ」の教科書・配布資料を読み、復習しておくこと							
科目のねらい	既習の薬理学の知識を活用し、救急時・副作用など特に注意すべき薬剤の知識を深め、投与時の看護を学ぶ。							
DPとの関連到達目標	DP 2-2) DP 2-3) DP 2-4)	1. 救急時・特に注意が必要な薬剤と副作用を再確認し、投与時の看護を理解できる						
単元名		教育内容						備考
Ⅰ. 臨床薬理と看護		1. 薬物療法 留意する薬物と看護	1) 薬理学の復習 2) 薬剤師用の発達段階に合わせた看護					
Ⅱ. 感染症に使用する薬剤と看護		2. 抗菌薬	1) 薬剤の特徴 2) 薬剤使用時の看護					
Ⅲ. 救急時の薬物と看護		1. 急変・救急時に用いられる薬物と看護	1) 心停止・ショック時に使用する薬剤の特徴 2) 心停止・ショック出現時の看護				演習	
Ⅳ. 化学療法と看護		1. 化学療法の特徴 2. 化学療法を受ける患者・家族への看護援助	1) 薬物療法の導入と継続 2) 薬物療法施行中の副作用 3) 各薬物の種類と特徴 4) 薬物療法の実際 1) 治療計画の理解と意思決定支援 2) アセスメント 3) 薬物療法に対する準備期間 4) 副作用出現時の看護 5) 治療継続と生活調整に向けたセルフケア					
Ⅴ. 疼痛緩和と看護		1. 痛みの援助	1) 痛みのメカニズム 2) 痛みのアセスメント 3) 各薬剤の種類と特徴 4) 疼痛に伴う看護					
Ⅵ. インスリン療法と看護		1. 糖尿病患者の指導	1) グルテスト 2) インスリン自己注射 3) 低血糖への対処				演習	
評価方法		筆記試験・レポート（配点については、講義日程確定時に提示する）						

専門分野	授業科目	臨床判断の基礎	単位数	1	講義時期	2年次前期	授業形態	講義
時間数	15							
事前学習内容	「基礎看護方法Ⅰ」で学習した「リフレクション」について復習しておくこと 事例の理解に必要な病態生理について学習してくること							
科目のねらい	看護活動の多様な場で「看護師のように‘気づき’‘解釈’し実践につなげていく思考過程」を学び、 臨床判断能力に必要な基礎的能力を習得する。							
DPとの関連 到達目標	DP 2-2) DP 2-3) DP 2-4)	1. 臨床判断能力について理解できる 2. 既習の知識を統合し、対象の状態変化に気づくことができる 3. 状態に応じた看護実践を考えることができる 4. 実践した看護のリフレクションができる						
単元名		教育内容						備考
Ⅰ. 臨床判断の基礎		1. 臨床判断	1) 臨床判断とは 2) 基盤となる考え方 (1) 問題解決過程 (2) クリティカルシンキング (3) 倫理的判断と価値判断 3) タナーの臨床判断モデル					演習
		2. 事例を用いた気づきの トレーニング	1) 気づき 2) リフレクション					
Ⅱ. 臨床判断の実際		1. 事例を用いた臨床判断 の実際	1) シミュレーション 2) リフレクション					校内実習
評価方法		筆記試験・レポート（配点については、講義日程確定時に提示する）						

専門分野	授業科目	看護研究の基礎Ⅰ	単位数	1	講義時期	3年次前期	授業形態	講義 校内実習
事前学習内容	既習の「基礎看護方法Ⅶ」の「看護の評価」について復習しておくこと							
科目のねらい	看護研究の意義を理解し、自己の看護実践を振り返るための看護研究の基礎的知識を学ぶ。							
DPとの関連 到達目標	DP 2-3) DP 4-1)	1. 看護研究の意義・目的・方法が理解できる 2. 自己の看護実践を振り返るための研究計画書作成と素材の整理ができる						
単元名		教育内容						備考
Ⅰ．看護研究		1. 看護研究とは	1)看護研究とは何か 2)看護研究の意義 3)リサーチクエスチョン					演習
		2. 研究の種類と特徴	1)研究デザインの種類 2)質的研究と量的研究 3)実験研究 4)調査方法の種類					
		3. 文献レビューと方法	1)文献とは 2)文献の種類 3)文献検索の方法 4)文献クリティーク					
		4. 研究における倫理的配慮	1)遵守すべき倫理原則と擁護すべき権利 2)研究倫理に対するガイドライン 3)依頼書と同意書					
		5. 研究デザイン	1)質的研究と量的研究 (1)質的研究デザイン (2)量的研究デザイン					
		6. データ収集	1)データの収集 2)データの分析					
		7. 研究計画書の作成	1)研究計画書とは					
		8. 文献検索	1)文献検索と実際					
		9. ケースレポート	1)ケースレポートと事例研究 2)体験を振り返ることの重要性 3)頭脳を鍛えることの重要性 4)看護実践を浮き彫りにすることの重要性					
Ⅱ．事例研究の実際		1. 事例研究レポートの作成	1)研究計画書の作成 2)研究素材と分析					演習
評価方法		筆記試験・レポート（配点については、授業日程確定時に提示する）						

専門分野	授業科目	看護研究の基礎Ⅱ	単位数	1	講義時期	3年次後期	授業形態	講義 校内実習
時間数	30							
事前学習内容	既習の「看護研究の基礎Ⅰ」の復習をしておくこと							
科目のねらい	自己の看護実践をふり返り、論文としてまとめるための基礎的知識を学ぶ。またその中で、自己の看護観を見つめなおす機会とする。							
DPとの関連到達目標	DP 2-3) DP 4-1) DP 4-2)	1. 自己の看護実践を研究的にまとめ、自己の看護実践を振り返ることができる 2. 研究論文を発表することができる 3. 自己の看護観を見つめなおすことができる						
単元名		教育内容						備考
Ⅰ．文献の批判的検討		1. クリティーク	1) クリティークとは 2) クリティークの実際					演習
Ⅱ．論文作成		1. 事例研究の実際	1) 事例研究の進め方 2) 研究テーマの設定 3) 文献レビュー 4) 研究目的の設定 5) 研究素材の整理 6) 研究素材の分析 7) 考察 8) 論文作成					
Ⅲ．論文発表		1. 実践報告	1) 実践報告の形式 2) 論文発表の実際					演習
評価方法		レポート（配点については、授業日程確定時に提示する）						

専門分野	授業科目	地域と暮らし	単位数	1	講義時期	1年次前期	授業形態	講義・演習
			時間数	15				
事前学習内容	自分の住んでいる町や学校の所在地である豊田市の特徴を調べておく							
科目のねらい	少子高齢化や地域包括ケアシステム推進など、社会の変化に伴い、看護を行う対象も医療機関に限らず、多様な場で生活する、あらゆる対象へと広がっている。 そのためこの科目では、地域における看護師の役割を理解するための前段階として、看護の対象となる人々を生活者として捉えられるよう、「地域」と「暮らし」への理解を深める。							
DPとの関連到達目標	DP 1-1) 1. 地域の特性が理解できる DP 1-2) 2. 地域に生活する人々の暮らしを知ることができる DP 2-1) 3. 地域共生社会の必要性を理解できる 4. 地域に暮らす一員(地域社会の構成員)として自己の果たす役割について考えることができる							
単元名	教育内容							備考
I. 地域の特性と暮らしの理解	1. 地域の特性 2. 暮らしの理解 3. 暮らしと地域のかかわり	1) 地域＜豊田市＞の特性 (1) 人口と人口分布 (2) 家族形態・世帯の特徴 (3) 生活環境(交通機関、公的施設、商業施設など) 1) ライフステージと暮らし (文化・慣習・健康観・価値観・生きる力) (1) 成人期(壮年期)子育て世代 (2) 成人期(向老期)退職後世代 (3) 老年期 1) 地域包括ケアシステムの考え方 2) 地域共生社会の必要性 3) 自助・互助・共助・公助とは 4) 地域社会における課題						講義・フィールドワーク
評価方法	筆記試験・レポート（配点については、講義日程確定時に提示する）							

専門分野	授業科目	地域・在宅看護概論Ⅰ	単位数	1	講義時期	1年次後期	授業形態	講義
			時間数	15				
事前学習内容	各回の講義に対する教科書の内容を読み、概要を理解しておくこと							
科目のねらい	地域・在宅看護の対象の機能と役割を理解し、地域包括ケアシステムにおける地域・在宅看護の役割について学ぶ							
DPとの関連到達目標	DP 2-1) DP 2-3) DP 3-1)	1. 地域・在宅看護における機能と役割が理解できる 2. 生活の場で暮らしを支える看護を理解できる						
単元名		教育内容						備考
Ⅰ. 暮らしの基盤としての地域の理解		1. 暮らしと地域のかかわり 2. 地域共生社会と地域包括ケアシステム	1)地域包括ケアシステムと地域共生社会との関連性 2)地域包括ケアシステムのまちづくり 3)高齢者の暮らしを支えるための自助と互助 4)暮らしを支える地域共生社会 5)地域に必要な社会資源 6)地域づくり活動					
Ⅱ. 地域・在宅看護の目的対象		1. 地域・在宅看護の目的と特徴 2. 対象者の特徴 3. 家族の理解	1)在宅看護の目ざすもの 2)在宅看護における看護師の役割 1)年齢からみた対象者の特徴 2)疾患からみた対象者の特徴 3)障害からみた対象者の特徴 4)在宅療養状態別にみた対象者の特徴 1)在宅看護の対象者としての家族 2)家族のとらえ方と看護師の関わり 3)家族のアセスメント 4)家族への支援				演習	
Ⅲ. 地域における暮らしを支える看護		1. 暮らしを支える看護	1)環境を整える看護 2)健康を支える看護 3)家族の健康をまもる看護 4)ライフステージに応じた看護 5)暮らしにおけるリスク 6)暮らしにおける災害対策					
評価方法	筆記試験・レポート（配点については、講義日程確定時に提示する）							

専門分野	授業科目	地域・在宅看護概論Ⅱ	単位数	1	講義時期	2年次前期	授業形態	講義
時間数	15							
事前学習内容	「地域・在宅看護概論Ⅰ」の内容を復習し、講義前には教科書を読み予習をする 多職種にはどのような職種があるか調べておく							
科目のねらい	生活の場の多様性について理解するとともに、地域・在宅で切れ目のない支援を行うための制度と多職種連携・協働について学ぶ							
DPとの関連到達目標	DP 2-1) DP 2-3) DP 3-1)	1. 地域・在宅看護実践の場を理解できる 2. 地域包括ケアシステムにおける多職種連携・多機関連携の重要性を理解できる 3. 地域・在宅看護を支える制度を理解できる						
単元名		教育内容						備考
Ⅰ. 地域・在宅看護実践の場と連携		1. 地域・在宅看護実践の場 2. 地域・在宅看護における多職種連携 3. 多職種・チームでの協働	1) 多様な場における看護 (1) 外来 (2) 訪問看護 (3) 施設 (4) 通所 1) 患者家族の意思決定支援と調整 2) 退院支援・退院調整 3) 入退院支援のプロセス 4) 入退院時における医療機関との連携 5) 入退所時における施設との連携 6) 退院支援の実際 1) 多職種連携・支援のネットワークづくり 2) 住民との連携 3) 関係諸機関・多職種との連携・チームでの協働 4) 学校・企業との連携					
Ⅱ. 地域・在宅看護にかかわる制度とその活用		1. 在宅看護を支える制度 2. 訪問看護の制度と機能 3. 地域包括ケアシステム	1) 医療保険制度 2) 介護保険制度 3) 障害者総合支援法 4) その他の制度 1) 訪問看護の目的・機能・特徴 2) 訪問看護ステーション 3) 訪問看護に関する制度 1) 地域包括ケアシステムとは 2) 地域包括支援センターの機能					
評価方法		筆記試験・レポート（配点については、講義日程確定時に提示する）						

専門分野	授業科目	地域・在宅看護方法Ⅰ	単位数	1	講義時期	2年次前期	授業形態	講義・演習
事前学習内容	基礎看護技術Ⅰ・Ⅱで習得した援助技術の留意点を振り返ってくる 地域で生活する人と家族の日常生活動作について考える							
科目のねらい	地域・在宅看護における看護と暮らしを支える看護技術について学ぶ							
DPとの関連到達目標	DP 1-1) DP 2-1) DP 2-2) DP 2-3)	1. 地域・在宅看護における看護の特徴とアセスメントの視点を理解することができる 2. 地域・在宅看護における基本技術(マナー・コミュニケーション技術)を習得できる 3. 地域・在宅看護における看護技術の基本を理解し、生活に合わせた援助方法を創造することができる						
单元名		教育内容						備考
I．地域・在宅看護の展開	1. 地域・在宅看護の展開	1)在宅看護の特徴とポイント 2)療養上のリスクマネジメント (1)在宅におけるリスクとは (2)環境の整備による安全の確保 (3)医療事故防止 (4)感染の防止 3)在宅看護における倫理と権利保障						
II．暮らしを支える看護技術	1. 地域・在宅看護における看護技術	1)地域・在宅看護におけるコミュニケーション 2)訪問時の心構え・マナー 3)家族を支える援助 4)意思決定支援 5)対象者の安全を守る技術						演習
	2. 暮らしにおける看護実践	1)生活行為とは 2)生活行為における在宅看護技術 (1)呼吸に関する在宅看護技術 (2)食生活・嚥下に関する在宅看護技術 (3)排泄に関する在宅看護技術 (4)移動・移乗に関する在宅看護技術 (5)清潔に関する技術 (6)褥創予防と管理						演習
	3. 医療管理を要する人の看護実践	1)医療ケアの原理原則 2)薬物療法 3)化学療法、放射線療法 4)在宅酸素療法 5)在宅人工呼吸療法 (1)非侵襲的陽圧換気療法・侵襲的陽圧換気療法 (2)排痰に関する技術 6)膀胱留置カテーテル・ストーマ管理 7)胃ろう・経管・経腸 8)在宅中心静脈栄養法						
評価方法		筆記試験（配点については、講義日程確定時に提示する）						

専門分野	授業科目	地域・在宅看護方法Ⅱ	単位数	1	講義時期	2年次前期	授業形態	講義
			時間数	30				
事前学習内容	各事例に必要な病態生理について復習しておくこと							
科目のねらい	既存の看護知識を応用しながらさまざまな対象(事例)に応じた地域・在宅看護の展開を学ぶ							
DPとの関連到達目標	DP 2-1) DP 2-3) DP 3-1)	1. 療養者・家族に合わせた看護の介入方法が理解できる 2. 地域・在宅看護のマネジメントについて理解できる						
単元名		教育内容						備考
Ⅰ. 地域・在宅看護の介入時期別の看護		1. 地域・在宅看護の介入時期別の看護の実際	1) 予防段階における看護 2) 外来における看護 3) 入院時の看護 4) 在宅療養準備期の看護 5) 在宅療養移行期の看護 6) 在宅療養安定期の看護 7) 在宅におけるリハビリテーション看護 8) 急性増悪期の看護 9) 終末期の看護					備考 演習
Ⅱ. 疾患別の地域・在宅看護		1. 疾患別地域・在宅看護の実際	1) 家族が同行する医療的ケア児 2) 高齢家族による介護困難な脳卒中の療養者 3) 家族の介護力が高いCOPDの療養者 4) 家族やコミュニティサポートを受けているがんの療養者 5) 介護・福祉を24時間受けているALSの療養者 6) 訪問看護介入が必要となったパーキンソン病の療養者 7) 家族や福祉の支援が必要な統合失調症の療養者 8) 独居の認知症療養者					備考 演習
Ⅲ. 地域・在宅看護におけるマネジメント		1. 地域・在宅看護のマネジメント	1) ケアマネジメントの理解 2) 多様な場における地域・在宅看護マネジメント 3) 介護保険制度上の地域・在宅看護マネジメント 4) 災害時の対応					
Ⅳ. 地域看護への拡大		1. 在宅看護から地域看護への拡大	1) 地域につなげる看護 2) 健康上・生活上の課題と予防看護 3) 地域ニーズから始まる看護機能 4) 地域・在宅看護の無限の可能性					
評価方法		筆記試験（配点については、講義日程確定時に提示する）						

専門分野	授業科目	地域・在宅看護方法Ⅲ	単位数	1	講義時期	2年次後期	授業形態	講義・演習
事前学習内容	「既習の基礎看護方法Ⅵ」「地域・在宅看護方法Ⅰ・Ⅱ」の内容を復習してくること							
科目のねらい	地域・在宅看護における看護過程の展開を学ぶ							
DPとの関連到達目標	DP 2-1) 1. 地域・在宅看護における看護過程の展開が理解できる DP 2-3) DP 2-4)							
単元名	教育内容						備考	
I. 地域・在宅における看護過程の展開	1. 在宅看護の看護過程展開 2. 事例の看護過程展開	1) 在宅看護過程の展開 (1) 在宅でのアセスメントの視点 (2) 目標・計画 (3) 実施と評価 (4) 訪問看護の記録 1) 地域・在宅看護においての必要な情報収集 2) 対象特性を捉える 3) 対象特性を踏まえてのアセスメント 4) 訪問看護の特徴を踏まえた看護計画の立案					演習	
II. 地域・在宅における臨床判断	1. 訪問時の状況に応じた看護判断	1) 訪問看護の場面における臨床判断					演習	
評価方法	レポート（配点については、講義日程確定時に提示する）							

専門分野	授業科目	成人看護学概論	単位数	1	講義時期	1 年次後期	授業形態	講義
時間数	30							
事前学習内容	各回の講義に対応する教科書の内容を読み、概要を理解しておくこと							
科目のねらい	成人期は、社会的自立の前段階から第一線を退くまでの人生の大半を占める時期である。この長い時期の成人期の身体的・心理的・社会的側面の特徴と対象の社会背景と生活特徴を理解し、対象に合わせた看護実践が行えるための基本的知識を学ぶ。							
DPとの関連 到達目標	DP 2-1) DP 2-3)	1. 成人看護の対象である成人を理解できる（人生のどのような時期にあるのか、各期の特徴を身体と心と社会関係とで見つめることができる） 2. 成人期に起こりやすい健康を妨げる要因と対処方法を理解できる 3. 健康の維持増進を進めていくための指導の必要性和その方法を理解できる						
単元名	教育内容							備考
I. 成人の生活と健康	1. 成人と生活 2. 生活と健康	1) 対象の理解 1) 大人の生活からとらえる健康 2) 対象の生活と健康を守りはぐくむシステム						
II. 成人への看護アプローチの基本	1. 成人への看護アプローチの基本	1) 生活の中で健康行動を生み、はぐくむ援助 2) 危機状況への対処を促す看護 3) 健康問題を持つ大人と看護師の人間関係 4) 集団における調和や変化を促す看護アプローチ 5) 看護におけるマネジメント 6) 看護実践における倫理的判断						演習
III. 成人の健康レベルに対応した看護	1. 健康生活をはぐくむ看護 2. 生活ストレスと看護	1) 健康生活をはぐくむ看護、看護の場と活動 1) 健康バランスの構成要素、影響を及ぼす要因 2) 生活行動から見た健康生活のおびやかし						
IV. 健康の段階別の看護	1. 急激な破綻から回復を促す看護 2. 慢性的な揺らぎの再調整を促す看護 3. 障害をもちながらの生活とリハビリテーション 4. 人生の最期のときを支える看護	1) 急激な健康破綻をきたした人の看護 1) 慢性的な健康状態の揺らぎと慢性病 2) セルフケア 3) 慢性病との共存の過程を支える看護 1) 障害を持つ人とリハビリテーション 2) 障害をもちながら生活する人を支援する看護 1) 終末期医療の現状 2) 終末期医療における概念 3) 人生最期のときを過ごしている人の理解 4) 人生最期のときを支える看護						
V. 健康生活を促すための看護技術	1. 各健康の段階における看護技術	1) エンパワメントエデュケーション 2) セルフマネジメントエデュケーション (1) コンプライアンス (2) 自己効力 3) セルフケア 4) コーピング 5) ストレスと危機						
評価方法	筆記試験・レポート（配点については、講義日程確定時に提示する）							

専門分野	授業科目	成人看護方法Ⅰ	単位数	1	講義時期	2年次前期	授業形態	講義
事前学習内容	各回の講義に対応する教科書の内容を読み、概要を理解しておくこと							
科目のねらい	成人看護方法Ⅱ～Ⅳの疾患別看護で共通して必要な知識として「手術療法を受ける成人の看護」、「がん患者の看護」を学ぶ。 また、「血液・造血器看護をもつ成人の看護」「アレルギー疾患・膠原病をもつ成人の看護」を設定し、疾患のメカニズムやその障害された状況を看護的視点から捉え、必要な看護援助を学ぶ。							
DPとの関連到達目標	DP 2-3)	1. 手術を受ける成人の看護を理解できる 2. がん患者の看護を理解できる 3. 血液・造血機能障害をもつ成人の看護を理解できる 4. 身体防御機能障害をもつ成人の看護を理解できる						
単元名	教育内容							備考
Ⅰ. 手術療法を受ける成人の看護(総論)	1. 周手術期看護の概念	1)手術を受ける患者の状況 2)チーム医療と看護師の役割 3)インフォームドコンセント 4)周手術期における安全管理						
	2. 手術前の患者の看護	1)外来看護師の役割 2)外来における手術前の患者の看護 3)手術前の具体的援助						演習
	3. 手術中の患者の看護	1)手術中の看護の要点 2)手術室における看護の展開 3)手術室の環境管理						
	4. 手術後の患者の看護	1)手術の回復を促進するための看護 2)術後合併症予防と発症時の対応 3)創傷治癒の促進 (1)創傷の観察と処置 4)自己管理に向けた援助 5)臨床判断						演習
	5. 重症集中治療を受ける患者の看護	1)重症集中治療・看護の概念と役割 2)重症集中治療における看護の実践 3)ICUの管理・運営						演習
Ⅱ. がん患者の看護	1. 終末期の患者の看護	1)緩和ケア						
Ⅲ. 血液・造血器疾患をもつ成人の看護	1. 血液・造血器疾患をもつ患者の看護	1)貧血のある人の看護 2)出血傾向のある人の看護 3)白血球減少のある患者の看護 4)骨髄穿刺を受ける患者の看護 5)化学療法を受ける患者の看護						
	2. 白血病患者の看護							
Ⅳ. アレルギー疾患・膠原病をもつ成人の看護	3. 悪性リンパ腫患者の看護							
	1. アレルギー疾患・膠原病をもつ患者の特徴と看護の役割 2. 全身性エリテマトーデス患者の看護	1)レイノー現象のある患者の看護						
評価方法	筆記試験・レポート（配点については、講義日程確定時に提示する）							

専門分野	授業科目	成人看護方法Ⅱ	単位数	1	講義時期	2年次前期	授業形態	講義
			時間数	30				
事前学習内容	既習の解剖生理・疾患(呼吸器・循環器)を復習しておくこと 各回の講義に対応する教科書の内容を読み、概要を理解しておくこと							
科目のねらい	「呼吸器疾患をもつ成人の看護」、「循環器疾患をもつ成人の看護」を設定し疾患のメカニズムやその障害された状況を看護的視点から捉え、必要な看護援助を学ぶ。							
DPとの関連到達目標	DP 2-3) DP 2-4)	1. 呼吸機能障害をもつ成人の看護を理解できる 2. 循環機能障害をもつ成人の看護を理解できる						
単元名								備考
Ⅰ. 呼吸器疾患をもつ成人の看護		1. 呼吸器疾患をもつ患者の特徴と看護の役割 1. 肺炎患者の看護 2. 慢性閉塞性肺疾患(COPD)患者の看護 3. 肺癌患者の看護 4. 臨床判断	1) 咳嗽・喀痰のある患者の看護 2) 胸痛のある患者の看護 1) 呼吸困難のある患者の看護 2) 酸素療法を受ける患者の看護 3) 人工呼吸器を装着する患者の看護 1) 血痰・喀痰のある患者の看護 2) 気管支鏡検査を受ける患者の看護 3) 手術を受ける患者の看護 4) 胸腔ドレナージを受ける患者の看護 1) シミュレーション 2) リフレクション					校内実習
Ⅱ. 循環器疾患をもつ成人の看護		1. 循環器疾患をもつ患者の特徴と看護の役割 1. 虚血性心疾患患者の看護(心筋梗塞・狭心症) 2. 心不全患者の看護 3. 心臓弁膜症患者の看護	1) 胸痛のある患者の看護 2) 心臓カテーテル治療を受ける患者の看護 3) 冠状動脈バイパス術を受ける患者の看護 4) 補助循環装置を装着する患者の看護 5) 心臓リハビリテーションを受ける患者の看護 1) 浮腫のある患者の看護 1) 弁置換術を受ける患者の看護					演習
評価方法		筆記試験・レポート(配点については、講義日程確定時に提示する)						

専門分野	授業科目	成人看護方法Ⅲ	単位数	1	講義時期	2年次前期	授業形態	講義
			時間数	30				
事前学習内容	既習の解剖生理・疾患(消化器・内分泌・代謝・腎)を復習しておくこと 各回の講義に対応する教科書の内容を読み、概要を理解しておくこと							
科目のねらい	「消化器疾患をもつ成人の看護」「内分泌・代謝疾患をもつ成人の看護」「腎疾患をもつ成人の看護」を設定し、疾患のメカニズムやその障害された状況を看護的視点から捉え、必要な看護援助を学ぶ。							
DPとの関連 到達目標	DP 2-3)	1. 消化・吸収機能障害をもつ成人の看護を理解できる 2. 内部環境調節機能障害をもつ成人の看護を理解できる 3. 腎機能障害をもつ成人の看護を理解できる						
単元名		教育内容						備考
Ⅰ. 消化器疾患をもつ成人の看護		1. 消化器疾患をもつ患者の特徴と看護の役割						
		2. 胃・十二指腸潰瘍患者の看護	1) 吐きけ・嘔吐のある患者の看護 2) 腹痛のある患者の看護 3) 吐血・下血のある患者の看護 4) 食欲不振と体重減少のある患者の看護					
		3. 潰瘍性大腸炎・クローン病患者の看護	1) 下痢のある患者の看護 2) 注腸造影検査を受ける患者の看護 3) 大腸内視鏡検査を受ける患者の看護					
		4. 腸閉塞(イレウス)患者の看護	1) 保存的療法を受ける患者の看護 2) 便秘のある患者の看護					
		5. 肝硬変・肝癌患者の看護	1) 腹水のある患者の看護 2) 黄疸のある患者の看護 3) 肝性脳症のある患者の看護					
		6. 急性膵炎患者の看護						
		7. 手術を受ける患者の看護	1) 食道癌患者の看護 2) 胃癌患者の看護 3) 大腸癌患者の看護 4) 肝臓癌患者の看護 5) 胆嚢・胆道手術患者の看護 6) 膵臓癌手術患者の看護					
Ⅱ. 内分泌・代謝疾患をもつ成人の看護		1. 内分泌・代謝疾患をもつ患者の特徴と看護の役割						
		2. 甲状腺機能亢進症(バセドウ病)患者の看護	1) 内服治療を受ける患者の看護 2) 手術を受ける患者の看護 3) アイソトープ治療を受ける患者の看護					
		3. 甲状腺機能低下症患者の看護	1) 内服治療を受ける患者の看護					
		4. 糖尿病患者の看護	1) 食事療法を受ける患者の看護 2) 運動療法を受ける患者の看護 3) 自己管理を要する患者への看護 4) 合併症を予防のための看護 フットケア 5) 易感染状態にある患者の看護 シックデイ					
		5. 乳がん患者の看護	1) 手術を受ける患者の看護 2) ボディイメージの変化のある患者の看護					
Ⅲ. 腎疾患をもつ成人の看護		1. 腎疾患をもつ患者の特徴と看護の役割						
		2. 慢性腎臓病患者の看護	1) 浮腫のある患者の看護 2) 高血圧のある患者の看護 3) 腎生検を受ける患者の看護 4) 透析(血液・腹膜)を受ける患者の看護					
		3. IgA腎症患者の看護	1) ステロイド療法を受ける患者の看護					
評価方法		筆記試験・レポート (配点については、講義日程確定時に提示する)						

専門分野	授業科目	成人看護方法Ⅳ	単位数	1	講義時期	2年次前期	授業形態	講義
			時間数	30				
事前学習内容	既習の解剖生理・疾患(脳神経・運動器・泌尿器・皮膚)を復習しておくこと 各回の講義に対応する教科書の内容を読み、概要を理解しておくこと							
科目のねらい	「脳・神経系疾患をもつ成人の看護」「運動器疾患をもつ成人の看護」「泌尿器科疾患をもつ成人の看護」 「皮膚疾患をもつ成人の看護」を設定し疾患のメカニズムやその障害された状況を看護的視点から捉え、 必要な看護援助を学ぶ。							
DPとの関連 到達目標	DP 2-3)	1. 脳・神経障害をもつ成人の看護を理解できる 2. 運動機能に障害をもつ成人の看護を理解できる 3. 泌尿器機能障害をもつ成人の看護を理解できる 4. 身体防御機能障害をもつ成人の看護を理解できる						
単元名		教育内容						備考
Ⅰ. 脳・神経疾患をもつ 成人の看護		1. 脳・神経疾患をもつ患者 の特徴と看護の役割 2. 脳血管疾患患者の 看護 (脳梗塞・脳出血・ くも膜下出血)	1)意識障害のある患者の看護 (1)意識レベルの観察 2)運動失調・不随意運動のある患者の看護 3)排尿障害のある患者の看護 4)言語障害のある患者の看護 5)運動麻痺のある患者の看護 (1)車椅子への移乗 6)筋力低下のある患者の看護 7)頭蓋内圧亢進症状のある患者の看護 8)開頭術を受ける患者の看護					校内実習
Ⅱ. 運動器疾患をもつ 成人の看護		1. 運動器疾患をもつ患者 の特徴と看護の役割 2. 骨折患者の看護 3. 椎間板ヘルニア 患者の看護 4. 脊髄損傷患者の看護 5. 四肢切断患者の看護 6. 慢性関節リウマチ患者 の看護	1)神経麻痺のある患者の看護 2)循環障害のある患者の看護 3)疼痛のある患者の看護 4)出血のある患者の看護 5)感染のある患者の看護 6)深部静脈血栓症患者の看護 7)ギプス固定を受ける患者の看護 8)牽引療法を受ける患者の看護 9)手術を受ける患者の看護 1)腰痛のある患者の看護 1)関節症状のある患者の看護					
Ⅲ. 泌尿器疾患をもつ 成人の看護		1. 膀胱癌患者の看護	1)尿閉のある患者の看護 2)血尿のある患者の看護 3)膀胱鏡検査患者の看護 4)手術を受ける患者の看護					
Ⅳ. 皮膚疾患をもつ 成人の看護		1. 皮膚疾患をもつ患者の 特性と看護の役割 2. アトピー性皮膚炎患者 の看護 3. 熱傷患者の看護	1)掻痒感のある患者の看護 2)ボディイメージの変化のある患者の看護 1)痛みのある患者の看護 2)分泌物のある患者の看護					
評価方法		筆記試験・レポート（配点については、講義日程確定時に提示する）						

専門分野	授業科目	成人看護方法Ⅴ	単位数	1	講義時期	2年次前期	授業形態	講義
	時間数		30					
事前学習内容	各事例展開に必要な病態生理について復習しておくこと							
科目のねらい	成人期にある患者の各期の看護過程の展開を学ぶ。							
DPとの関連到達目標	DP 2-1) DP 2-3)	1. 成人期にある患者の各期の看護過程の展開を理解できる						
単元名								備考
Ⅰ. 急性期にある成人の看護過程の展開		1. 周手術期にある患者の事例	1)対象特性を捉える 2)生物体の必要条件 3)問題の明確化 4)計画・立案				演習	
Ⅱ. 慢性期にある成人の看護過程の展開		1. 慢性期にある患者の事例	1)対象特性を捉える 2)生物体の必要条件				演習	
Ⅲ. ターミナル期にある成人の看護過程の展開		1. ターミナル期にある患者の事例	1) 対象特性を捉える 2)生物体の必要条件				演習	
評価方法		レポート(配点 急性期60% 慢性期20% 終末期20%) 各期すべてにおいて60%以上の合格とする						

専門分野	授業科目	老年看護学概論	単位数	1	講義時期	1年次後期	授業形態	講義・演習
			時間数	30				
事前学習内容	各回の講義に対応する教科書の内容を読み、概要を理解しておくこと							
科目のねらい	高齢者の加齢に伴う変化や発達課題、わが国の高齢社会の実態、高齢者の自立と尊厳を守るための制度や理論を学ぶ。さらに高齢者を支える家族への支援ならびに多様なニーズに対応するための多職種連携、高齢者のリスクマネジメントの必要性や医療の安全確保についても学ぶ。							
DPとの関連到達目標	DP 2-1) DP 2-3)	1. 老いを生きる高齢者の加齢や発達課題を理解することができる 2. 高齢者の保健・医療・福祉の動向について学び、現状と課題を理解することができる 3. 高齢者の人権と倫理問題を理解することができる 4. 老年看護の基本的な考えを理解することができる 5. 保健医療福祉施設における看護を理解することができる 6. 高齢者に起こりやすい医療事故を理解することができる						
単元名		教育内容						備考
Ⅰ. 老年期とその特徴		1. 老いとは 2. ライフサイクルにおける老年期 3. 加齢に伴う身体的側面の変化 4. 加齢に伴う心理的側面の変化 5. 加齢に伴う社会的側面の変化 6. 老年症候群の特徴	1)老いのイメージ 1)老年期とは 2)高齢者の発達課題 1)皮膚とその付属器 2)視聴覚とそのほかの感覚 3)循環系 4)呼吸器系 5)消化器系 6)ホルモンの分泌 7)泌尿生殖器 8)運動系 9)高齢者体験 1)知的能力の変化 2)情緒の変化 1)社会的役割の変化 2)家庭における変化 1)老年症候群とは 2)フレイル				演習	
Ⅱ. 超高齢社会と社会保障		1. 超高齢社会の統計的輪郭 2. 高齢社会における保健医療福祉の動向 3. 高齢者の権利擁護	1)超高齢社会の現況 2)高齢者と家族 3)高齢者の死亡 4)高齢者の健康状態 5)高齢者の暮らし 1)高齢者とソーシャルサポート 2)保健医療福祉システムの構築 3)高齢者を支える多職種連携と看護活動 1)スティグマとは 2)エイジズムとは 3)権利擁護(アドボカシー) 4)高齢者虐待 5)身体拘束 6)成年後見制度 7)日常生活自立支援事業					
Ⅲ. 老年看護の理念		1. 老年看護のなりたち	1)老年看護の定義 2)老年看護の4つの要素 3)老年看護の特徴 4)老年看護に役立つ理論・概念 5)老年看護に携わる者の責務					
Ⅳ. 生活・療養の場における看護		1. 高齢者とヘルスプロモーション 2. 保健医療福祉施設および居住施設における看護 3. 治療・介護を必要とする高齢者を含む家族の看護	1)老年期のヘルスプロモーション 2)介護予防とヘルスプロモーション 1)生活・療養の場に求められる看護 2)看護と介護の協働と連携 1)家族の健康と生活 2)家族への援助					
Ⅴ. 高齢者のリスクマネジメント		1. 高齢者と医療安全	1)高齢者と医療事故 2)高齢者特有のリスク要因 3)高齢者がみまわれやすい医療事故と対応の実際					
評価方法		筆記試験・レポート（配点については、講義日程確定時に提示する）						

専門分野	授業科目	老年看護方法Ⅰ	単位数	1	講義時期	2年次前期	授業形態	講義・演習	
			時間数	30					
事前学習内容	各回の講義に対応する教科書の内容を読み、概要を理解しておくこと								
科目のねらい	加齢変化や健康問題を併せ持つ高齢者の特徴を理解し、その人らしく自立した生活を営むことができるよう、日常生活援助技術を学ぶ。 また、老年期は人生の最終ステージであるため、終末期に求められる看護について学ぶ。								
DPとの関連 到達目標	DP 2-1) DP 2-2) DP 2-3)	1. 老化がもたらす日常生活上の問題を知り、その援助方法を理解することができる 2. 高齢者の日常生活を高めるためのコミュニケーション技術を理解することができる 3. 老年期のエンドオブライフケアにおける看護を理解することができる							
単元名		教育内容						備考	
Ⅰ. 日常生活を支える 基本動作と看護		1. 基本動作と環境 のアセスメント 2. 転倒のアセスメントと 看護ケア 3. 廃用症候群のアセスメ ントと看護ケア	1)生活の基本となる日常生活動作 2)基本動作と・姿勢を支える環境 3)日常生活活動・動作の評価(BADL・IADL) 1)転倒のアセスメントと看護ケア 2)転倒予防に向けた援助 3)転倒した高齢者への看護 1)高齢者と廃用症候群 2)廃用症候群の早期発見・予防に向けた看護						
Ⅱ. 食事・食生活と看護		1. 食事・食生活のアセスマ ントと看護ケア	1)高齢者における食生活の意義 2)高齢者に特徴的な変調 3)食生活のアセスメント 4)食生活の支援						演習
Ⅲ. 排泄と看護		1. 排泄のアセスメントと 看護ケア	1)高齢者の排泄ケアの基本 2)排尿・排便障害のアセスメントとケア						校内実習
Ⅳ. 清潔と看護		1. 清潔のアセスメントと 看護ケア	1)清潔の意義 2)高齢者に生じやすい生活に関する健康課題 3)清潔のアセスメント 4)清潔の援助(入浴・口腔ケア)						演習
Ⅴ. 生活リズムと看護		1. 生活リズムのアセスマ ントと看護ケア	1)高齢者と生活リズム 2)高齢者に特徴的な変調 3)生活リズムのアセスメント 4)生活リズムを整える看護						
Ⅵ. コミュニケーション と看護		1. 高齢者とのかかわり方	1)高齢者とのコミュニケーションと関わり方の原則 2)高齢者に起こりやすいコミュニケーション障害と アセスメント(老人性難聴、失語症、構音障害) 3)高齢者の状態・状況に応じたコミュニケーション						演習
Ⅶ. セクシュアリティと看護		1. 高齢者における セクシュアリティと 看護	1)高齢者におけるセクシュアリティ 2)高齢者ケアの場における性に関する問題 3)セクシュアリティのアセスメントと看護						
Ⅷ. 社会参加と看護		1. 高齢者の社会参加	1)高齢化の現状と目指す社会の方向性 2)地域における高齢者の社会参加						
Ⅸ. エンドオブライフケア		1. エンドオブライフケア の概念 2. 意思決定への支援 3. 末期段階に求められ る援助	1)エンドオブライフケアとは 2)高齢者におけるエンドオブライフケア 3)高齢者の死のとらえかた 1)高齢者の尊厳をまもるための支援 2)意思決定のための看護師の役割 1)高齢者の末期段階における身体的変化とアセスメ ント 2)末期段階の苦痛を緩和するケア 3)家族への支援						
評価方法		筆記試験（配点については、講義日程確定時に提示する）							

専門分野	授業科目	老年看護方法Ⅱ	単位数	1	講義時期	2年次前期	授業形態	講義・演習
			時間数	30				
事前学習内容	各回の講義に対応する教科書の内容を読み、概要を理解しておくこと							
科目のねらい	高齢者に特有な疾患のメカニズムやその障害された状況を看護的視点から捉え、必要な看護援助を学ぶ。							
DPとの関連到達目標	DP 2-3)	1. 高齢者に対する検査・治療の看護を理解することができる 2. 高齢者特有の症状と疾患に対する看護の必要性和ケアの方法を理解することができる						
単元名		教育内容						備考
Ⅰ. 高齢者によくみられる身体症状のアセスメントと看護		1. よくみられる身体症状	1) 瘡痒(かゆみ) 2) 脱水					
Ⅱ. 治療を必要とする高齢者の看護		1. 検査と看護ケア 2. 薬物療法と看護ケア 3. 手術療法と看護ケア 4. リハビリテーションと看護 5. 入院治療を受ける高齢者	1) 高齢者が受けることの多い検査 2) 検査を受ける高齢者への看護ケア 1) 加齢に伴う薬物動態の変化 2) 薬物療法による有害事象 3) 看護職が注意すべき高齢者と薬の関係 1) 手術を受ける高齢者の特徴 2) 術前の看護マネジメント 3) 術後の看護マネジメント 4) 高齢者に特徴的な手術 (1) 白内障と眼内レンズ挿入 1) リハビリテーションを必要とする高齢者 2) 経過別リハビリテーション 1) 治療を担う医療施設の状況 2) 入院に伴う環境の変化と高齢者への影響 3) 入院をする高齢者への看護ケア (1) 入院初期の援助 (2) 家族への配慮 (3) チーム医療 4) 退院調整・退院支援					
Ⅲ. 身体障害をもつ高齢者の看護		1. 脳梗塞 2. パーキンソン 3. 肺炎 4. 骨粗鬆症 5. 褥創 6. 人工肛門	1) 脳梗塞とその看護ケアの要点 1) パーキンソン病とその看護ケアの要点 1) 肺炎とその看護ケアの要点 1) 骨粗鬆症とその看護ケアの要点 1) 褥創とその看護ケアの要点 1) 人工肛門とその看護ケアの要点					演習
Ⅳ. 認知機能障害のある高齢者の看護		1. うつ 2. せん妄 3. 認知症	1) うつのアセスメントと看護ケア 1) せん妄のアセスメントと看護ケア 1) 認知症のアセスメントと看護ケア					
評価方法		筆記試験(配点については、講義日程確定時に提示する)						

専門分野	授業科目	老年看護方法Ⅲ	単位数	1	講義時期	2年次後期	授業形態	講義・演習
	時間数		15					
事前学習内容	「老年看護学概論、老年看護方法Ⅰ・Ⅱ」の内容を復習しておくこと							
科目のねらい	老年看護における看護過程の展開を学ぶ。							
DPとの関連 到達目標	DP 2-1) DP 2-3) DP 2-4)	1. 老年期に特有な事例の看護過程の展開ができる						
単元名		教育内容						備考
Ⅰ. 回復期にある高齢者の看護過程の展開		1. 回復期にある患者の看護過程の展開	1) 対象特性を捉える 2) 生物体の必要条件 3) 問題の明確化 4) 計画立案					演習
Ⅱ. 高齢者における臨床判断		1. 事例を用いた臨床判断の実際	1) シミュレーション 2) リフレクション					演習
評価方法		レポート（配点については、講義日程確定時に提示する）						

専門分野	授業科目	小児看護学概論	単位数	1	講義時期	1年次後期	授業形態	講義・演習
事前学習内容	各回の講義に対応する教科書の内容を読み、概要を理解しておくこと							
科目のねらい	小児看護の対象は、人間形成の基盤となる第1の人生において、あらゆる健康レベルにある子どもと家族である。対象に合わせた看護実践ができるよう、小児各期の成長・発達過程の特徴を理解し、健全な成長・発達を促進するための援助を学ぶ。							
DPとの関連 到達目標	DP 2-1) DP 2-3)	1. 小児各期における成長・発達の概要を理解できる 2. 健康な子どもの日常生活を理解できる 3. 成長・発達段階に応じた援助方法を理解できる 4. 人格を持ったひとりの人間であることを理解できる						
単元名	教育内容							備考
I. 小児看護の特徴	1. 子どもとは 2. 小児看護の特質	1) 子どもとは(子どものイメージ) 1) 小児看護の対象・小児の特徴 2) 小児看護の目標と役割 3) 小児看護の変遷と課題						
II. 子どもの成長・発達と 発達段階にあわせた 援助方法	1. 成長・発達の原則と 影響因子 2. 小児各期の成長・ 発達 3. 小児各期の生活と 健康増進のための 援助	1) 成長・発達の概念 2) 発達段階の区分と発達課題 3) 成長・発達の原則と影響因子 1) 小児各期の形態的・機能的・精神運動機能の発達 2) 心理的・社会的発達 3) 性の発達 4) 発達理論 5) 発達評価 1) 小児各期の日常生活 (乳児期・幼児期・学童期・思春期) (1) 食事 (2) 排泄 (3) 活動 (4) 睡眠 (5) 休息 (6) 清潔(衣生活を含む) 2) 小児各期の健康問題						体験学習 演習
III. 子どもと栄養	1. 小児の栄養の特徴 2. 離乳食の実践	1) 小児の栄養の特徴と重要性 2) 乳児の栄養 1) 離乳の意義と重要性 2) 離乳食の調理・試食 3) 離乳実施上の注意						演習 校内実習
IV. 子どもと家族を取り巻く 社会	1. 子どもと家族 2. 保健と福祉 3. 小児と家族の諸統	1) 子どもにとっての家族 2) 現代家族の特徴 3) 家族の役割 1) 児童福祉・母子保健・学校保健 2) 医療費の支援 3) 予防接種 1) 出生と家族 2) 子どもの死亡						
V. 小児看護における倫理	1. 子どもの権利 2. 医療現場で起こり やすい問題点と看護	1) 児童憲章 2) 児童の権利に関する条約 1) 医療における治療の選択と意思決定 2) 子どもへのケア						演習
評価方法	筆記試験・レポート（配点については、講義日程確定時に提示する）							

専門分野	授業科目	小児看護方法Ⅰ	単位数	1	講義時期	2年次前期	授業形態	講義・演習
			時間数	30				
事前学習内容	各回の講義に対応する教科書の内容を読み、概要を理解しておくこと							
科目のねらい	小児期の発達段階や健康の段階に応じた看護を学ぶ。							
DPとの関連到達目標	DP 2-3)	1. 健康障害をもつ子どもと家族の看護を症状別、経過別に理解できる 2. 小児看護に必要な看護技術のポイントを理解できる						
単元名		教育内容						備考
Ⅰ. 病気・障害をもつ子どもと家族の看護		1. 病気・障害が子どもに与える影響	1) 病気・障害に対する子どもの理解と反応 2) 子どもの病気・障害に対する家族の反応					
Ⅱ. 症状を示す子どもの看護		1. 不機嫌・啼泣・発熱・脱水・痙攣	1) それぞれの症状の特徴と原因 2) アセスメントと看護				演習	
Ⅲ. 子どもにおける疾病の経過と看護		1. 慢性期にある子どもと家族の看護	1) 慢性期の特徴 2) 子どもと家族の看護				演習	
		2. 急性期にある子どもと家族の看護	1) 急性期の特徴 2) 子どもと家族の看護				演習	
		3. 周手術期の子どもと家族の看護	1) 周手術期の特徴 2) 子どもと家族の看護					
		4. 終末期にある子どもと家族の看護	1) 終末期の特徴 2) 子どもの生命・死についてのとらえ方 3) 子どもと家族の看護 4) 子どもをなくした家族の看護				演習	
Ⅳ. 子どもの状況(環境)に特徴づけられる看護		1. 在宅療養中の子どもと家族の看護 2. 災害時の子どもと家族の看護 3. 子ども虐待と看護	1) 在宅療養の環境と看護の役割 2) 在宅療養中の子どもと家族の特徴と看護 1) 被災地の環境と看護の役割 2) 災害時の子どもと家族の特徴と看護 1) 子どもの虐待とは 2) リスク要因と発生予防・早期発見 3) 子どもの虐待に特徴的にみられる状況 4) 求められるケア				演習	
Ⅴ. 新生児の看護		1. 低出生体重児の看護 2. 高ビリルビン血症の新生児の看護	1) 低出生体重児の特徴 2) 胎外生活への適応を支える看護 3) 成長・発達を支える看護 4) 保育器の取り扱い 5) NICUの特徴 6) 家族の看護 1) 光線療法を行う新生児と家族の看護					
Ⅵ. 子どものアセスメント		1. アセスメントに必要な技術	1) コミュニケーション 2) バイタルサイン 3) 身体的アセスメント				演習	
Ⅶ. 検査・処置を受ける子どもの看護		1. 与薬 2. 検体採取 3. 呼吸症状の緩和 4. 救命処置	1) 与薬の方法と注意事項 2) 輸液管理 1) 採尿の方法と注意事項 2) 腰椎穿刺の目的・方法 1) 鼻腔・口腔内吸引の目的・方法 2) 吸入療法の目的・方法 1) 気道内異物除去法 2) 心肺蘇生法				演習 校内実習 演習 校内実習 校内実習	
評価方法		筆記試験・レポート（配点については、講義日程確定時に提示する）						

専門分野	授業科目	小児看護方法Ⅱ	単位数	1	講義時期	2年次前期	授業形態	講義・演習
			時間数	15				
事前学習内容	各事例に必要な病態生理について学習してくること							
科目のねらい	小児期に特有な疾患のメカニズムやその障害された状況を看護的視点から捉え、必要な看護援助を学ぶ。							
DPとの関連 到達目標	DP 2-3)	1. 小児期に特有な疾患の看護が理解できる						
単元名		教育内容						備考
Ⅰ. 小児期に特有な疾患の看護		1. Ⅰ型糖尿病をもつ子どもの看護	1)入院中の看護 2)退院後の療養生活				演習	
		2. 気管支喘息の子どもの看護	1)急性増悪(発作)に対する看護 2)長期管理における看護				演習	
		3. 川崎病の子どもの看護	1)急性期の看護 2)回復期の看護				演習	
		4. 肥厚性幽門狭窄症の子どもの看護	1)術前の看護 2)術後の看護					
		5. 白血病の子どもの看護	1)確定診断から治療開始 2)初期寛解から治療終了 3)入院治療終了、外来通院開始から成人期へ 4)再燃・再発				演習	
		6. ネフローゼ症候群の看護	1)急性期(乏尿期)の看護 2)回復期(利尿期)の看護 3)症状消失後の看護 4)退院にむけて				演習	
		7. 急性糸球体腎炎の看護	1)急性期の看護 2)症状消失後の看護 3)退院時の看護					
		8. 注意欠如・多動症 および自閉スペクトラム症の看護	1)子どもの特徴を理解する 2)日常生活・社会生活行動の支援 3)対人関係・行動変容に向けた支援					
評価方法	筆記試験・レポート (配点については、講義日程確定時に提示する)							

専門分野	授業科目	小児看護方法Ⅲ	単位数	1	講義時期	2年次後期	授業形態	講義・演習
時間数	15							
事前学習内容	事例展開に必要な病態生理について学習してくること							
科目のねらい	小児期にある患児の看護過程の展開を学ぶ。							
DPとの関連 到達目標	DP 2-1) DP 2-3)	1. 小児期にある患児の看護過程の展開が理解できる						
単元名	教育内容							備考
I. 患児の看護過程の 展開	1. 急性糸球体腎炎患児 の看護		1)対象特性を捉える 2)生物体の必要条件 3)問題の明確化 4)計画立案					演習
	2. 急性期にある子どもの 看護		1)対象特性を捉える 2)問題の明確化 3)計画立案					演習
評価方法	レポート（配点については、講義日程確定時に提示する）							

専門分野	授業科目	母性看護学概論	単位数	1	講義時期	1年次後期	授業形態	講義
			時間数	30				
事前学習内容	各回の講義に対応する教科書の内容を読み、概要を理解しておくこと							
科目のねらい	母性看護の基盤となる概念や理論を理解し、母性看護の在り方を学ぶ。また母性を取り巻く現状やライフステージ各期の健康問題や倫理的課題から看護師の役割を学ぶ。							
DPとの関連到達目標	DP 2-1) DP 2-3)	1. リプロダクティブヘルス及びその他の母性看護を支える概念を理解できる 2. 女性のライフステージ各期の健康課題を理解し、看護の役割を理解できる 3. 母性の対象を取り巻く現状や関係法規・制度を理解できる 4. リプロダクティブヘルス・ライツの視点から、自己の母性観や父性観を高めることができる						
単元名		教育内容						備考
Ⅰ. 母性看護の基盤となる概念		1. 母性看護の概念 2. リプロダクティブヘルスに関する概念	1) 母性看護の中心概念 2) 家族の発達 3) 母性看護実践を支える概念 1) リプロダクティブヘルス／ライツ 2) セクシュアリティとジェンダー 3) 性の多様性				演習	
Ⅱ. リプロダクティブヘルスに関する動向		1. 母子保健統計	1) 出生に関する統計 2) 死亡に関する統計 3) 家族形成に関する統計					
Ⅲ. リプロダクティブヘルスに関する倫理		1. 母性看護における倫理的・法的・社会的課題	1) 人工妊娠中絶に関する倫理 2) 出生前診断に関する倫理 3) 生殖補助医療に関する倫理					
Ⅳ. リプロダクティブヘルスに関する法や政策と支援		1. 母子に関する法や政策	1) 子どもと女性の保護に関する法律 2) 女性の就労に関する法律 3) 子育て支援に関する制度・政策 4) 暴力に関する法律と支援 5) 周産期医療システムとチーム医療					
Ⅴ. 生殖に関する生理と健康問題		1. 生殖に関する生理 2. 生殖に関する健康問題と看護	1) 第二性徴 2) 性周期 3) 妊娠の成立と妊娠・出産の理解 1) 月経異常 2) 性感染症 3) 避妊法					
Ⅵ. 不妊症		1. 不妊の理解 2. 心理と社会的反応 3. 不妊カップルへの支援	1) 不妊とは 2) 不妊の原因と治療 1) 心理的・社会的反応 1) 医療的支援と社会的支援					
Ⅶ. 加齢とホルモンの変化		1. 更年期 2. 老年期	1) 更年期女性の特徴 2) 更年期女性の健康問題と看護 1) 老年期女性の特徴 2) 老年期女性の健康問題と看護				演習 演習	
評価方法		筆記試験・レポート（配点については、講義日程確定時に提示する）						

専門分野	授業科目	母性看護方法Ⅰ	単位数	1	講義時期	2年次前期	授業形態	講義	
			時間数	30					
事前学習内容	各回の講義に対応する教科書の内容を読み、概要を理解しておくこと								
科目のねらい	妊婦・産婦・褥婦・新生児の生理的变化と特徴および生活上の課題を理解し、家族を含めた看護や保健指導について学ぶ。								
DPとの関連到達目標	DP 2-3)	1. 妊娠・分娩・産褥各期と新生児の生理的变化およびその特性が理解できる 2. 妊婦・産婦・褥婦の身体的、心理的、社会的特徴を理解し必要な看護が理解できる 3. 新生児の胎外生活への適応過程とアセスメントの視点と看護が理解できる 4. 妊婦・産婦・褥婦および新生児を取り巻く家族への必要な看護が理解できる							
単元名		教育内容						備考	
Ⅰ. 妊婦の看護		1. 妊婦の生理 2. 妊婦と胎児のアセスメント 3. 妊婦と家族の心理・社会的変化と看護 4. 妊娠期の健康維持のためのセルフマネジメント 5. 出産と子育ての準備のためのセルフマネジメント	1)妊娠の定義と成立 2)胎児の成長 3)妊娠の生理 4)妊娠期の生理的变化に伴う不快症状 1)妊婦健康診査における看護とアセスメント 1)妊婦と家族の心理・社会的変化と看護 1)妊婦の身体的活動・不快症状・性生活へのアプローチ 2)妊婦の健康維持のための健康管理とセルフケア 3)妊婦の社会活動とセルフケア 1)パースプラン・子育ての準備 2)胎児の生理						
Ⅱ. 妊婦の看護にかかわる技術		1. 妊婦のヘルスアセスメント 2. 超音波診断法・NST 3. 妊娠期の保健指導	1)問診・視診・聴診・レオポルド触診法 1)実施方法と評価 1)食事と栄養の支援 2)日常生活動作 3)妊娠中の運動 4)マイナートラブルへの対応						
Ⅲ. 産婦の看護		1. 分娩の生理 2. 産婦と胎児のアセスメント 3. 産婦のニーズと看護 4. 産婦と家族の心理	1)分娩に関する定義 2)分娩の三要素 3)分娩の経過 1)分娩第1期～第4期のアセスメント 1)産婦の基本的ニーズへの看護 2)産痛の緩和と分娩進行に対応した看護 1)母性意識の発達・パースレビュー 2)家族関係の構築						
Ⅳ. 褥婦の看護		1. 褥婦の定義と生理 2. 褥婦のアセスメントと看護 3. 褥婦の日常生活とセルフケアを支える看護 4. 母親になることへの看護 5. 母乳育児	1)産褥期の定義 2)全身・生殖器の変化 3)褥婦と家族の心理・社会的変化 1)全身状態・乳房の状態・子宮復古など 2)褥婦と家族の心理・社会的状態 1)活動と休息・栄養と食事・排泄・清潔 2)家族計画 1)愛着形成と親役割獲得過程 2)褥婦への社会支援 1)母乳分泌メカニズムに基づいた母乳育児支援 2)授乳の観察と評価						
Ⅴ. 新生児の看護		1. 新生児の生理 2. 新生児のアセスメント 3. 新生児期のケア	1)新生児の生理的特徴 1)新生児のアセスメント 1)出生直後のケア 2)出生24時間以内・24時間以降から退院に向けたケア						
評価方法		筆記試験・レポート（配点については、講義日程確定時に提示する）							

専門分野	授業科目	母性看護方法Ⅱ	単位数	1	講義時期	2年次前期	授業形態	講義	
			時間数	30					
事前学習内容	既習の正常な妊娠期・分娩期・産褥期について復習しておくこと 各回の講義に対応する教科書の内容を読み、概要を理解しておくこと								
科目のねらい	妊娠・分娩・産褥各期に起こりやすい異常とその看護方法を学習し、母性看護が展開できる基礎知識を学ぶ。								
DPとの関連到達目標	DP 2-3)	1. 妊娠・分娩・産褥期の異常の病態を理解できる 2. 妊娠・分娩・産褥期の異常とその看護を理解できる							
単元名		教育内容						備考	
Ⅰ. 妊娠期の異常		1. ハイリスク妊娠 2. 異所性妊娠 3. 妊娠維持期間の異常 4. 妊娠に伴う異常 5. 多胎 6. 合併症を有する妊娠 7. 妊娠期の感染症 8. 羊水の異常 9. 胎児機能不全 10.胎盤の異常 11.出生前診断	1)若年妊娠・高齢妊娠 1)異所性妊娠 1)流産・切迫流産 2)不育症 3)早産・切迫早産 1)妊娠悪阻 2)妊娠高血圧症候群 3)妊娠糖尿病 1)多胎妊娠 1)心疾患 2)腎疾患 3)子宮筋腫 1)トキソプラズマ 2)風疹 3)サイトメガロウイルス 4)単純ヘルペスウイルス 5)B型肝炎ウイルス 6)C型肝炎ウイルス 7)梅毒 8)ヒト成人T細胞白血病ウイルス 9)ヒト免疫不全ウイルス 1)羊水過多・羊水過少 2)破水 1)胎児機能不全 1)前置胎盤 2)常位胎盤早期剥離 1)出生前診断						演習
Ⅱ. 分娩期の異常		1. 産道の異常 2. 娩出力の異常 3. 胎児の異常 4. 児頭骨盤不均衡 5. 臍帯異常 6. 分娩時損傷 7. 異常出血 8. 産科処置・手術	1)骨産道・軟産道の異常 1)微弱陣痛 2)遷延分娩・分娩停止 3)過強陣痛 1)胎位の異常 2)回旋異常 3)進入異常 1)児頭骨盤不均衡 1)臍帯下垂・臍帯脱出 1)子宮破裂 2)頸管裂傷・会陰裂傷 1)大量出血時の対応 2)弛緩出血 1)分娩誘発・促進 2)帝王切開 3)その他の急速遂娩						演習
Ⅲ. 産褥期の異常		1. 産褥期の出血・血栓症 2. 産褥期の感染症 3. 産褥期の下部尿路機能障害 4. 乳頭・乳房トラブル 5. 産褥精神障害 6. 帝王切開術後	1)子宮復古不全 2)後期分娩後異常出血 3)静脈血栓症・深部静脈血栓症・肺血栓塞栓症 1)産褥熱 1)尿排出障害と蓄尿障害 1)乳頭トラブル 2)乳房トラブル 1)産後うつ病 1)帝王切開後のアセスメントと看護						演習
評価方法		筆記試験・レポート（配点については、講義日程確定時に提示する）							

専門分野	授業科目	母性看護方法Ⅲ	単位数	1	講義時期	2年次後期	授業形態	講義・演習 校内実習
事前学習内容	各回の講義に対応する教科書の内容を読み、概要を理解しておくこと 事例展開に必要な学習を復習すること							
科目のねらい	正常な経過をたどる褥婦について、ウエルネスの視点を含めた看護過程の展開方法を学ぶ。 また母子に対する基本的な看護技術を学ぶ。							
DPとの関連 到達目標	DP 2-1) 1. 妊産褥婦及び新生児に必要な看護技術を習得できる DP 2-2) 2. 正常な褥婦の事例に応じた看護過程の展開を理解できる DP 2-3) 3. ウエルネスの視点で看護を考えることができる							
単元名		教育内容						備考
Ⅰ. 新生児への看護技術		1. 新生児の看護にかかわる技術	1) 早期新生児の観察 2) 抱き方、寝かし方 3) 衣服の交換・おむつ交換 4) 沐浴					演習
Ⅱ. 妊婦・褥婦への看護技術		1. 妊婦・褥婦にかかわる看護技術	1) レポルド触診法の実践 2) 授乳の援助					演習
Ⅲ. 産褥期にある対象の看護過程の展開		1. 正常産褥の事例	1) 対象特性を捉える 2) 生物体の必要条件 3) 看護上の問題の明確化 4) 計画立案					演習
評価方法		レポート（配点については、講義日程確定時に提示する）						

専門分野	授業科目	精神看護学概論Ⅰ	単位数	1	講義時期	1年次後期	授業形態	講義
			時間数	15				
事前学習内容	各回の講義に対応する教科書の内容を読み、概要を理解しておくこと							
科目のねらい	こころの発達と健康的なあり方を理解し、精神保健に必要な知識を学ぶ。							
DPとの関連 到達目標	DP 2-1) DP 2-3)	1. こころの健康やはたらきとしくみについて理解できる 2. こころの成長や病む過程、回復には、人間関係や社会環境が関連していることを理解できる 3. 精神保健医療福祉対策とその動向、精神障害者の地域生活を支える社会制度を理解できる						
単元名	教育内容							備考
Ⅰ. こころの健康	1. こころの健康	1) 精神の健康とは 2) 心身の健康に及ぼすストレスの影響 3) 心的外傷(トラウマ)と回復 4) 精神障害という考え方						
Ⅱ. こころのはたらきと 人格の形成	1. こころのはたらき 2. こころのしくみと人格の 発達	1) 意識と認知機能 2) 感情 3) 学習と行動 4) 知能 5) 心の理論 6) 心理的特性をはかる検査 1) 人格と気質 2) 精神分析と精神力動論(意識と無意識) 3) 対象関係論(よい乳房・わるい乳房) 4) エリクソンの漸成的発達理論 (ライフサイクルとアイデンティティ) 5) ボウルビーの愛着理論(愛着と心の安全の基地) 6) コフォートの自己心理学(自己愛と自己対象体験) 7) 「甘え」理論						
Ⅲ. 人間関係とこころの はたらき	1. 関係のなかの人間	1) システムとしての人間関係 2) 全体としての家族 3) 人間と集団						
Ⅳ. 社会環境とこころの はたらき	1. 社会の中の精神障害 2. 地域におけるケアと 支援 3. 医療の場におけるケア と支援	1) 精神障害と文化 2) 精神障害と社会学 1) 地域における生活支援の方法 2) 地域生活を支えるシステムと社会資源 3) 地域におけるケアの方法と実際 4) 学校におけるメンタルヘルスと看護 5) 職場におけるメンタルヘルスと精神看護 1) 身体疾患をもつ患者のメンタルヘルス 2) 看護師のメンタルヘルスへの支援 3) 感情労働としての看護 4) 看護における共感の光と影 5) 感情労働の代償と社会 6) 共感疲労を予防するためのヒント						
Ⅴ. 精神保健医療福祉 対策とその動向	1. おもな精神保健医療 福祉対策とその動向	1) 自殺対策 2) 依存症対策 3) その他の健康問題への対策						
評価方法	筆記試験・レポート（配点については、講義日程確定時に提示する）							

専門分野	授業科目	精神看護学概論Ⅱ	単位数	1	講義時期	2年次前期	授業形態	講義
時間数	30							
事前学習内容	各回の講義に対応する教科書の内容を読み、概要を理解しておくこと							
科目のねらい	人が危機を生きのびる際に示す反応のひとつとしてこころの健康問題があることを正しく理解し、誰もが抱え得る健康問題と捉えて精神看護に必要な知識とその根拠、基本的な援助方法を学ぶ。							
DPとの関連到達目標	DP 2-1) DP 2-3)	1. 精神看護学の基本となる考え方と、こころの健康問題を抱える人の視点にたった人権擁護について理解できる 2. 精神看護の核となる人間関係には自己・他者理解が必要不可欠であることを理解し、こころの健康問題を抱える人に対する援助に必要な知識や具体的な方法を習得できる						
単元名	教育内容							備考
I. 精神看護学の考え方	1. 精神看護学の考え方		1) 精神看護学とは何か 2) 精神障害をもつ人の病いの体験と精神看護 3) こころのケアと日本社会 4) 精神看護の課題 5) 精神を病むことと生きること 6) 精神症状論と状態像 —理解への手がかり—					
II. 看護の倫理と人権擁護	1. 精神医療および精神看護の変遷 2. 精神障害と法制度		1) 精神障害と治療の歴史 2) 日本における精神医療および看護の流れ 1) 精神看護における法律 2) 精神科領域で必要な法律と制度 3) 法律・制度における課題					
III. リスクマネジメントの考え方と方法	1. リスクマネジメントの考え方 2. 緊急事態への対処		1) 安全の条件 2) リスクマネジメントと行動制限 1) 自殺、暴力、無断離院 2) 緊急事態とスタッフの支援					
IV. こころの健康問題を抱える患者の理解と看護の基本	1. ケアの前提 2. ケアの原則 3. ケアの方法 4. 関係性のアセスメント 5. 患者・看護師関係における感情体験		1) 自分について知ること 2) ケアする相手を知らうとすること 3) 関係性を理解すること 1) 人としての尊厳を尊重する 2) 互いの境界をまもる 3) 応答性を保つ 4) 現実検討をする 1) そばにいないこと 2) 遊ぶこととユーモア 3) 話すこと、聞くこと 4) 自分自身であること 1) プロセスレコードの活用 2) 異和感の対自化 1) 転移・逆転移 2) 肯定的感情と否定的感情 3) チームのダイナミクス					
V. 回復を支援すること	1. 回復の意味 2. 器としての地域		1) 回復とはどういうことか 2) リハビリテーションからリカバリーへ 3) リカバリーのビジョン 1) 病院から地域へ 2) 器としての地域づくり					
VI. リエゾン精神看護	1. リエゾン精神看護とその活動		1) リエゾン精神看護とは 2) リエゾナーズの役割 3) リエゾナーズの活動の実際					
評価方法	筆記試験・レポート（配点については、講義日程確定時に提示する）							

専門分野	授業科目	精神看護方法Ⅰ	単位数	1	講義時期	2年次前期	授業形態	講義
			時間数	30				
事前学習内容	各回の講義に対応する教科書の内容を読み、概要を理解しておくこと							
科目のねらい	こころの健康問題を抱える患者や家族の体験を理解し、精神疾患・症状や診察・検査・治療段階に応じた看護、回復過程を支える看護に必要な知識とその根拠、基本的な援助方法を学ぶ。							
DPとの関連到達目標	DP 2-3)	1. 主な精神疾患・症状に対する看護に必要な知識と援助方法を習得できる 2. 診察・検査・治療段階に応じた看護に必要な知識と援助方法を習得できる 3. 患者・家族の持てる力を理解し、その力を活かした回復過程を支えるための看護に必要な知識と援助方法を習得できる						
単元名		教育内容						備考
Ⅰ. 主な精神疾患・症状に対する看護		1. 主な精神疾患・症状と看護	1) 統合失調症患者の看護 2) 気分障害患者の看護 3) 神経症性障害、ストレス関連障害患者の看護 4) アルコール依存症患者の看護 5) 摂食障害・パーソナリティ障害患者の看護 6) さまざまな精神症状と看護					
Ⅱ. 診察・検査・治療段階に応じた看護		1. 精神科を受診すること 2. 治療の器としての病院・病棟 3. 入院中の観察とアセスメント 4. ケアの方向性を考える 5. 退院に向けての支援と実際 6. 精神科における身体のケア 7. 回復過程を支える看護	1) 日常生活でのつまづき 2) 入院という体験 3) 日本の精神科病棟の特徴 1) 入院のメリット・デメリット 2) 治療的環境としての病棟 1) 入院時のオリエンテーション 2) 観察とアセスメントの方法 1) 患者の日常生活状況を知る 2) 患者の参加とケアプランのたて方 1) 地域生活への橋渡し 2) 多職種連携による地域移行支援 1) 精神療法としての身体のケア 2) 精神科におけるフィジカルアセスメントのむずかしさ 3) 日常生活における身体のケア 4) 睡眠障害のアセスメントとケア 5) 薬物療法を受ける患者のケア 6) 電気けいれん療法を受ける患者のケア 7) 身体合併症のアセスメントとケア 8) 精神科における終末期ケア 1) 急性期病棟におけるリカバリーの試みと看護の視点 2) 慢性期病棟におけるリカバリーの試みと看護の視点 3) リカバリーを促す環境 4) リカバリーを促す方法としてのグループ 5) 回復のためのプログラム 6) リカバリーのプロセス					
Ⅲ. こころの健康問題を抱える患者の家族への看護		1. 患者とともに暮らす家族への支援	1) 家族のストレスと健康状態のアセスメント 2) 家族の対処力とソーシャルサポートのアセスメント 3) 家族システムのアセスメント 4) 家族への教育的介入と支援 5) 患者－家族関係					
評価方法		筆記試験・レポート（配点については、講義日程確定時に提示する）						

専門分野	授業科目	精神看護方法Ⅱ	単位数	1	講義時期	2年次後期	授業形態	講義
			時間数	15				
事前学習内容	事例展開に必要な知識について復習しておくこと							
科目のねらい	精神に障害をもつ患者の看護過程の展開を学ぶ。							
DPとの関連 到達目標	DP 2-1) DP 2-3)	1. 精神に障害をもつ患者の看護過程の展開を理解できる						
単元名		教育内容						備考
I. 精神に障害をもつ 患者の看護過程の 展開		1. 精神に障害をもつ 患者の事例	1)対象特性を捉える 2)生物体の必要条件 3)問題の明確化 4)計画立案					備考 演習
評価方法		レポート						

専門分野	授業科目	看護技術のまとめ	単位数	1	講義時期	2年次後期	授業形態	講義 校内実習
事前学習内容	各回の講義に対応する教科書の内容を読み、概要を理解しておくこと 動画があるものについては動画を視聴しておくこと							
科目のねらい	基礎看護方法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴで習得した看護技術を応用し、対象の状態や状況に合わせた日常生活援助技術を習得する。							
DPとの関連 到達目標	DP 2-2) DP 2-3)	1. 根拠に基づいた看護技術を確実に習得できる 2. 対象に合わせた日常生活援助を実施できる 3. 全体像を意識して看護技術を実施できる						
単元名		教育内容						備考
Ⅰ. 看護技術の応用		1. 対象に合わせた援助技術	1) 事例の状況に合わせた看護技術 * グループ検討と訓練 (1) 血圧測定 (2) 車椅子移乗 (3) 全身清拭 (4) 陰部洗浄 (5) 臥床患者のシーツ交換 (6) 臥床患者の寝衣交換 (7) 洗髪 2) 看護技術の活用 (1) 全身清拭 (2) 足浴					校内実習
評価方法	筆記試験・レポート（配点については、講義日程確定時に提示する）							

専門分野	授業科目	災害・国際看護	単位数	1	講義時期	3年次前期	授業形態	講義
			時間数	15				
事前学習内容	各回の講義に対応する教科書の内容を読み、概要を理解しておくこと							
科目のねらい	災害看護・国際看護に関する基礎的知識を理解し、災害過程において支援を必要とする人々の看護を学ぶ。							
DPとの関連到達目標	DP 2-3)	1. 災害医療、災害看護の基礎知識と災害時の看護師の役割を理解できる 2. 国際看護の基礎知識と国際看護における看護師の役割を理解できる						
単元名		教育内容						備考
Ⅰ. 災害看護(11時間)		1. 災害医療の基礎知識	1)災害の定義 2)災害の種類と健康被害 3)災害医療の特徴					
		2. 災害看護の基礎知識	1)災害看護の定義と役割 2)災害看護の対象 3)災害看護の特徴と看護活動					
		3. 被災者特性に応じた活動現場別の災害看護	1)急性期・亜急性期 2)慢性期・復興期 3)静穏期					
		4. 被災者特性に応じた被災看護の展開	1)子どもに対する災害看護 2)妊産婦に対する災害看護 3)高齢者に対する災害看護 4)精神疾患患者に対する災害看護 5)在宅療養者に対する災害看護 6)慢性疾患患者に対する災害看護					
		5. 災害とこころのケア	1)災害がもたらす精神的影響 2)こころのケアとは 3)被災者のこころのケア					
Ⅱ. 国際看護(4時間)		1. 国際看護学とは	1)世界の健康問題の現状 2)国際看護学の定義 3)国際看護学の対象 4)国際看護学に関連する基礎知識					
		2. 国際協力のしくみ	1)国際機関 2)国際救援の調整					
		3. 国際看護活動	1)国際看護の実際					
評価方法		筆記試験・レポート（配点については、講義日程確定時に提示する）						

専門分野	授業科目	救急看護	単位数	1	講義時期	2年次後期	授業形態	演習・演習 校内実習
時間数	15							
事前学習内容	各回の講義に対応する教科書の内容を読み、概要を理解しておくこと							
科目のねらい	救急看護が即実践できる能力と災害時に直後より活動できる基礎的能力を養うと共に、事例を用いて救急時の優先度を考え、マネジメント能力と救急看護に必要な基礎知識を学ぶ。							
DPとの関連 到達目標	DP 2-3) DP 2-4)	1. 救急看護の概念と基礎的知識を理解し、救急時の看護技術を習得できる						
単元名	教育内容							備考
I. 救急看護	1. 救急看護とは	1) 救急看護の定義と役割 2) 救急医療体制 3) 救急看護と法的・倫理的側面						
	2. 主要病態に対する救急	1) 心肺停止状態への対応 (1) 一次救命処置 (2) 二次救命処置 2) 意識障害・呼吸障害への対応 3) ショック・循環障害への対応 4) 体液・代謝異常時への対応 (脱水・浮腫・高カリウム血漿・低血糖) 5) 体温異常への対応(熱中症) 6) 外傷への対応 7) 熱傷への対応 8) 中毒への対応 9) 溺水への対応						
II. 救急時の看護技術	1. 心肺蘇生法	1) 心肺蘇生法の基礎的知識 2) AEDの目的・使用方法・留意点 3) 心肺蘇生法						校内実習
	2. 止血法	1) 直接圧迫止血法 2) 間接圧迫止血法						校内実習
	3. 運搬法	1) 担架を用いない搬送法(徒手搬送) 2) 担架搬送法						校内実習
	4. 救急時の事例検討							演習
評価方法	筆記試験・技術チェック (配点については、講義日程確定時に提示する)							

専門分野	授業科目	看護管理	単位数	1	講義時期	3年次前期	授業形態	講義
時間数	15							
事前学習内容	各回の講義に対応する教科書の内容を読み、概要を理解しておくこと							
科目のねらい	よりよい看護を提供するためのマネジメントと看護職者同士の協働、多職種連携の必要性を学ぶ。							
DPとの関連到達目標	DP 3-1) DP 4-1)	1. 看護管理機能の概要、病院における看護管理を理解できる						
単元名		教育内容						備考
I. 看護管理		1. 看護とマネジメント	1)看護管理学とは 2)看護におけるマネージメント					
		2. 看護ケアのマネジメント	1)看護基準と看護手順 2)患者の権利の尊重(インフォームドコンセント) 3)安全管理 4)看護職の協働 5)他職種との協働 6)情報					
		3. 看護サービスのマネジメント	1)看護サービスのマネジメント 2)組織目的達成のマネジメント 3)協働のためのマネージメント 4)情報のマネジメント 5)技術のマネジメント 6)サービスの評価					
		4. マネジメントに必要な知識と技術	1)組織とマネージメント 2)リーダーシップとマネージメント 3)組織の調整 4)組織と個人					
評価方法		筆記試験(配点については、講義日程確定時に提示する)						

専門分野	授業科目	医療安全	単位数	1	講義時期	2年次後期	授業形態	講義・演習
時間数	15							
事前学習内容	各回の講義に対応する教科書の内容を読み、概要を理解しておくこと							
科目のねらい	わが国の医療安全対策や医療現場で取り組まれている安全対策をふまえ、対象に安全な看護サービスを行う上で起こる可能性がある医療事故とその対応について学ぶ。							
DPとの関連到達目標	DP 2-3) DP 2-4)	1. 医療安全の基本的概念を理解できる 2. 事故を予防するための対策を理解することができる						
単元名	教育内容							備考
I. 医療安全と事故防止の概念	1. 医療安全と医療事故の考え方		1)医療安全とは 2)医療事故とは 3)セーフティマネジメントとは					
	2. 安全を阻害する因子		1)ヒューマンエラーとは (1)人間の特性 2)ルール違反 3)ハインリッヒの法則					
	3. 看護事故防止の考え方		1)危険予知と危険回避 2)報告連絡相談 3)看護師の責任					
II. 医療事故を予防するための対策	1. 危険の予測に基づく事故防止 2. 組織としての医療安全対策		1)危険予知トレーニング 1)事故分析の方法 2)事故事例の分析と対策立案					演習 演習
III. 安全な医療機器の取り扱い	1. 医療機器の原理と注意事項		1)心電図計 2)除細動器 3)人工呼吸器 4)輸液ポンプ 5)シリンジポンプ					演習
評価方法	筆記試験（配点については、講義日程確定時に提示する）							